

対象施設

- 都内200床未満の病院
(直近3ヶ年に支援を行った病院を除く)



支援方法

- 就業協力員が月1回病院を訪問し、看護の質向上や勤務環境改善などに向けた病院の取り組みに対して直接、助言・相談などを行います
- 取り組みに必要な研修の企画や外部講師招聘、地域への発信やオンライン開催のサポートを行います
- 無料でご参加いただけます。取り組み内の研修会にかかる費用は原則、東京都が負担します

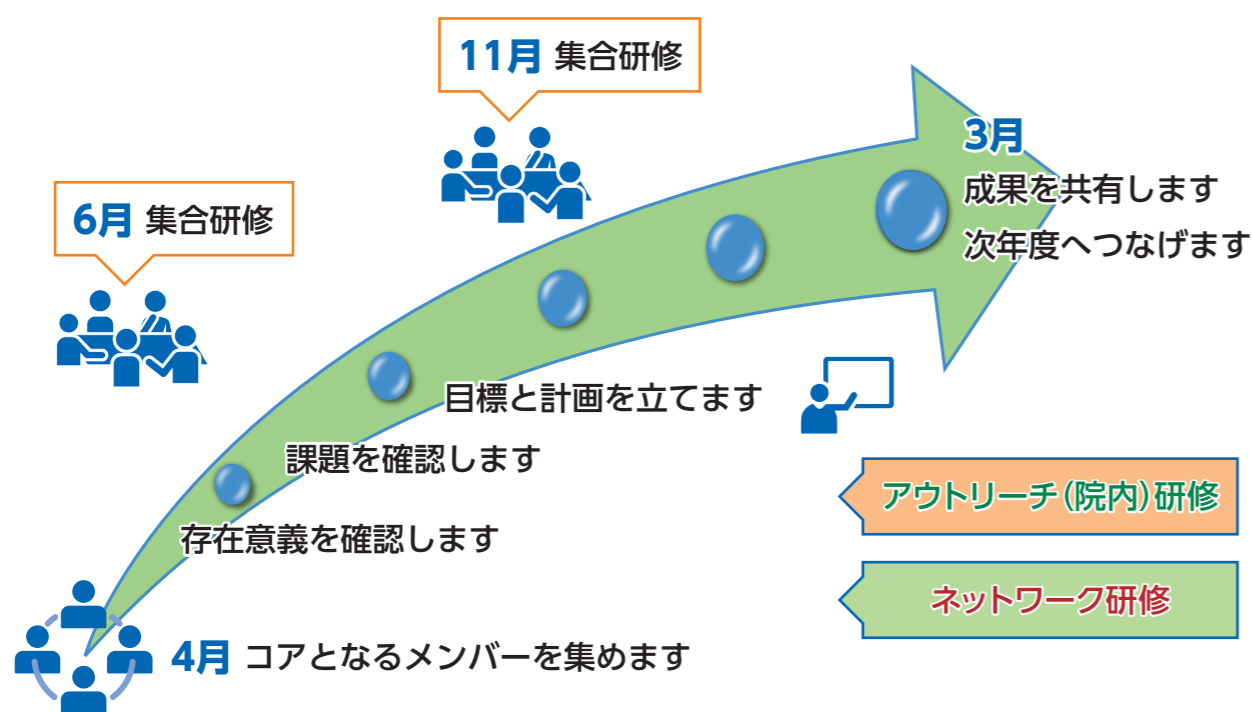
東京都看護職員定着促進支援事業

アウトリーチ型支援事業に 参加しませんか



『こうした
をカタチに』
を一緒に!!

1年間の取り組みのプロセスとスケジュール



- 就業協力員が病院を訪問して看護管理者の「こうした」「こんな取り組みをしたい」等々自施設の課題に取り組むプロセスを1年かけてお手伝いします

【お問合せ】 東京都ナースプラザ 看護師等確保対策事業係

専用ダイヤル **03-6276-1718** 〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-2-19

東京都ナースプラザ

【設置主体】



東京都

【運営受託者】



アウトリーチ型支援事業 参加事例の取り組み紹介

Part 1

教育体制の整備に取り組みたい！

B病院は療養型病院です。「急性期病院に疲れて転職したのに、思っていたより業務に慣れるのが大変」とギャップを感じての離職率が高く、また新入職者の教育が整っていない課題もみえてきたので、教育体制の整備に取り組みました。教育体制に対する職員の意見を把握するため、職員へのアンケート調査を実施することから始め、「当院ではこんな看護を目指して、こんな看護師を育てたい」をビジョンに教育計画を作成しました。クリニカルラダー導入も含め短期・中期・長期目標を設定し、次年度新入職者受入れオリエンテーションの見直しや年間教育スケジュールを作成することができました。

看護部長とコアメンバーのこの取り組みを病院幹部が認めてくれ、次年度からのeラーニング導入予算を獲得することまでできたのです。

Part 2

2年越しの「排尿自立支援」に取り組みたい！

G病院は急性期・障害者・地域包括ケア病棟を有する病院です。看護部長は皮膚・排泄ケア認定看護師とともに排尿自立・ケアの充実に取り組みんでいましたが、思うように進んでいませんでした。寝たきりの患者も多く、職員からは「尿道留置カテーテルを抜く必要があるのか?」「尿意はないと思う」「業務負担」等の意見が寄せられていました。

アウトリーチ型支援事業への参加を機に取り組みの目的と、「尿路感染症予防」「倫理的配慮」「せん妄予防」「ADLの維持」等のメリットを職員全員に改めて説明し、職員の理解・納得の上で取り組みを進めていきました。その結果、看護職員と排尿ケアチームが協働し、下部尿路機能の回復のための包括的なケアができるようになり、「排尿自立支援加算」を算定できるようにもなりました(826,000円/7か月)。

看護部長は、「なによりも若い看護師のアセスメント能力が向上した」「患者の尊厳を考えた手間をかけた良いケアが実践できている」と取り組みの成果を実感できました。

Part 3

災害対策を整備したい！

M病院は、非常用電源の設備がなく、非常時は蓄電池対応となっており、災害マニュアルも10年前に作成したものが改訂されていない状況でした。一方、医療圏内では、災害についての課題に取り組む「災害研修共同計画」を企画していました。そこで、M病院がアウトリーチ型支援事業へ手上げし、外部の支援を受けながら自院の災害対策の整備活動を推し進めるとともに、医療圏内の災害研修企画の一端を担うことにしました。

短期的には、全職員へ災害に関する意識調査実施、災害対策・BCPIについて知識の習得、アクションカードの作成・訓練実施、災害備品・マニュアル等の整備を行いました。

また、災害時の地域連携システムの構築を目的にネットワーク研修を東京都ナースプラザと共同開催し、多くの病院関係者が参加しました。

地域での自院の役割を見据え、区内の災害拠点病院MAPを作成すると共に長期的には地域の中小規模病院の連携を行っていく予定です。アウトリーチ型支援事業への参加が、災害対策の土台づくりとBCP策定に向けた本格的な検討への後押しとなり、また、医療圏内での病院連携の強化にも繋げていくことができました。

Part 4

身体拘束低減に向けた取り組みを進めたい！

D病院は、介護療養型医療施設であった際には、拘束は行っていませんでしたが、60床の医療療養型になり拘束が増えてきました。患者さんは、気管切開18名、胃管25名前後、点滴20名前後で、気管カニューレ再挿入対応可能な医師が限定されていることも大きな一因となっており、ミトン使用15名前後、胴抑制2名、上肢抑制4名という状況です。拘束したくないのですが、対策が思いつきませんでした。

そこで、「縛らない看護で安全で、安心な医療体制の構築」に向けて取り組みを開始しました。まず、東京都ナースプラザの就業協力員とともに「院長の強い協力が不可欠である」と院長を説得することから始めました。院長の理解を得て、院長自身も気管カニューレ抜去時の適切な対応が可能となり、職員自身も身体拘束を体験する研修に参加することにより、意識が変わり、取り組みが前に進んでいきました。

組織のトップの意識を変えるのに時間と労力を要しましたが、患者にとって何が大切かを院内全体で共有し、「縛らない看護」の実現に向けて取り組みを進めることができました。

Part 5

院内認定看護師を育成したい！

N病院は、47床で入院・外来診療、訪問診療、訪問看護を行っています。長く在職する職員が多く、個々に自主的に院外研修等を受講して看護実践能力を高めていました。看護管理者は、認定看護師を育成したいと切望していましたが、小規模病院では人員と予算等の関係で実現できない状況でした。

アウトリーチ型支援事業への参加を機に院内認定看護師の育成に取り組みたいと思い、職員に意向を聞いたところ、「褥瘡ケア」と「摂食嚥下ケア」について興味があると手上げをしてくれた職員がいました。

そこで、両分野の認定看護師の定期派遣を依頼し、院内認定看護師育成に向けて研修を計画し実施しました。実際に認定看護師から講義を受けることや、現場で自分達が行ってきたケアに対して、大丈夫と背中を押してもらうことで職員の自信につながっていきました。

看護管理者としては、「研修が楽しい、明日からでも取り入れられるね」など研修の度ごとに職員の感想を聞くことができ、アウトリーチ型支援事業に参加してよかったと思っています。

日々様々な対応を行っている小規模病院では、知識・技術・スキルの高い院内認定看護師が在籍し活躍することで、自病院の患者はもちろんのこと、地域住民への質の高い看護の提供に繋がることが示せる取り組みとなりました。

Part 6

初めての病院機能評価受審に向けて、皆で協力して取り組みを進めたい！

A病院は、サーベイヤーの事前訪問研修を受け、指摘事項を基に改善活動を進めていました。受診経験者は看護部長一人で、病院内の全部署から大いに頼りにされ、看護部長のもと院内が力を合わせていましたが、職員が病院機能評価を知らないことで、これでいいのかと不安な面もありました。

そこで、東京都ナースプラザの就業協力員の力を借りて、コアメンバーの看護師長たちと病院機能評価解説集の評価のポイントに沿って「サーベイヤーはここを見ているよ」「このような説明ができれば大丈夫」など助言を得ながら各種マニュアルを改訂していきました。就業協力員から、「この取り組みは素敵ですね」と励まされ、様々な改善活動を進めていきました。

また、看護実践力を高めるため、外部講師による研修を企画し、「入退院支援」や「脳血管疾患患者の看護」についてシリーズ化して実施しました。更に、病院全職員を対象に「医療倫理」についての研修も企画しました。

看護部長は明るく力強いリーダーシップの発揮に努めていましたが、その熱い思いに応えようと一生懸命取り組んでいる看護師長たちの頑張りで、明るく前向きに取り組みが進んでいきました。

Part 7

個々の能力や努力を正當に評価したい！

病院が取り組む人事考課とキャリアラダー評価と連動させたい！

K病院は、医療療養病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を有する病院です。次世代の育成、職員の士気の低下、病院経営などに課題を抱えていました。アウトリーチ型支援事業に参加して、次年度導入開始予定の人事考課制度とキャリアラダー評価の整合性などについてアドバイスが欲しいと考えました。

まず、課題の整理を行い、キャリアラダー導入のための検討と準備を行っていきました。看護部長が取り組みについて職員へ説明し、キャリアラダーと評価方法の作成、運用マニュアルの作成、認定表作成等、進捗状況に合わせたアドバイスを就業協力員から受けながら取り組みを進めていきました。

次に、職員への効果的な導入のため、「面接技法」「人事考課」の研修会を開催しました。人事考課制度については、院長から東京都医療勤務環境改善支援センターにも連絡し、数回訪問を受けアドバイスをもらいました。

院長は「地域に求められる病院を目指して職員一丸となって業務に取り組んでいる。努力している人が適正に評価されて、それが賞与に反映される仕組みを作りたい」と職員に対して説明を行いました。看護部長は職員一人ひとりに専用ファイルを配布してキャリアラダーの説明を行いました。

病院の人事考課、看護部のキャリアラダーについて皆でやっていく雰囲気ができ、少しずつ良い方向へ変化していきました。

『こうしたいをカタチに』と一緒に！！